

2022年度  
柔道整復科  
I部3年  
シラバス

【分野】	専門分野 関係法規		
【科目】	関係法規		
【基本情報】			
配当年次	3 学年	担当教員	丸山 純子
単位数	1 単位		
開講学期	1学期	授業形態・回数	講義 10回
【授業情報】			
授業概要	柔道整復師の資格や業務を定めた柔道整復師法を理解し、保健・医療・福祉の連携において関連する関係法規について学ぶ。関係法規を学ぶ意義、柔道整復師法と関連職種の法、医療に関連する法(医師法・医療法など)、福祉に関連する法(介護保険法・老人福祉法・母子保健法など)などの法律をみていく。		
授業の一般目標 (GIO)	柔道整復師に関係する法律を理解し、適切な柔道整復業務ができる。柔道整復師との連携が必要な医療関係職種に関する法律を併せて理解し、業務分担・境界域を熟知し業務の円滑な運営に資する人格を形成する。		
【担当教員から】			
教科書	公益社団法人柔道整復学校協会監修 関係法規		
参考書	柔整師必携(社)日本柔道整復師会編		
成績評価基準	評価の観点とは1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。 学期末ごとに授業への出席回数による授業参加意欲を評価する。 4者択一式・記述試験		
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 年間評価の割合：1期＝20/100、2期＝30/100、3期＝50/100 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満		
授業時間外に必要な学修	各授業に対して復習を2時間		
履修にあたっての留意点	国家試験出題基準の基づいて頻出試験問題の内容を中心に授業を展開します。 発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、教員に相談するか図書館などを利用し専門書にて理解度深めてください。		

【授業計画】					
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態	
1期	1	法律の概要	1. 法律の意義について理解する 2. 法の体系を理解する 3. 患者の権利、インフォームドコンセント、医療事故について理解する	講義	
	2	柔道整復師法の概要	1. 柔道整復師法の定義と目的を理解する 2. 柔道整復師国家試験の概要を理解する	講義	
	3	免許	1. 免許の意義を理解する 2. 柔道整復師免許の意義を理解する 3. 免許要件の詳細を理解する	講義	
	4		4. 柔道整復師免許の詳細を理解する 5. 柔道整復養成システム概要を理解する	講義	
	5	業務	1. 業務の禁止に関して詳細を理解する 2. 施術の制限の意義と詳細を理解する 3. 医師法などの医療関連職種の詳細を理解する 4. 業務と守秘義務の関係の詳細を理解する 5. 業務における都道府県知事の指示を理解する	講義	
	6	施術所	1. 施術所の開設に関する詳細を理解する 2. 施術所の構造設備基準の詳細を理解する	講義	
	7	雑則	1. 広告制限に関し詳細に理解する 2. 名称の制限について詳細に理解する	講義	
	8	罰則	1. 柔道整復師法上の罰則を詳細に理解する 2. 罪刑法定主義について理解する	講義	
	9	医療法 その他の関係法規	1. 医療法について詳細を理解する 2. 医療関係法規について詳細に理解する	講義	
	10	試験		試験	
【分野】		専門基礎分野 保険医療福祉と柔道整復の理念			
【科目】		柔道の成り立ち			
【基本情報】					
配当年次	3 学年	担当教員	須賀 一成/高橋 光生/杉山 直人		
単位数	4 単位				
開講学期	通年	授業形態・回数	演習	40回	
【授業情報】					
授業概要	形を用いて柔道の理合いを追求する。 また、攻撃および防御の練習により技の理合いを理解できるようにする。 信頼される社会人として果たすべき責任や医療関係者としての倫理について学ぶ。				
授業の一般目標 (GIO)	柔道の技術習得と試合審判規定を理解させるとともに、対人的技能の向上、得意技の体得、形の習得を目標とする。 道整復師の倫理、心構えを理解し、人間の尊厳を基調として倫理的側面が理解できる。				

【担当教員から】	
教科書	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編集)、配布資料
参考書	柔道(柏崎克彦著) 寝技で勝つ柔道(柏崎克彦著) 投げの形・柔の形(講道館)DVD
成績評価基準	評価の観点は1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。 学期末ごとに授業への出席回数による授業参加意欲を評価する。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 年間評価の割合:1期=20/100、2期=30/100、3期=50/100 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A:100~90点 (2) B: 89~70点 (3) C: 69~60点 (4) D: 60点未満
授業時間外に必要な学修	各授業に対して復習を1時間
履修にあたっての留意点	放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して柔道場にて練習を行うこと。

【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	柔道について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘉納師範について知る</li> <li>・嘉納師範が修行した柔術流派を知る</li> <li>・柔道を表す言葉を知る</li> <li>・講道館の形を知る</li> <li>・国際柔道試合審判規定を知る</li> </ul>	演習
	2	礼法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼法の意義と目的を知る</li> <li>・各礼法の相違を理解する</li> <li>・正しい礼法を理解する</li> </ul>	演習
	3	受身	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受身の目的を理解する</li> <li>・受身動作の重要性を理解する</li> <li>・受身の種類と適用する場面を理解する</li> <li>・各受身の動作が正しくできる</li> <li>・各受身が自然な動作でできる</li> </ul>	演習
	4	後ろ受身 横受身 前回り受身	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くずしとつくりを理解する</li> <li>・技を掛けるためのくずしとつくりを知る</li> <li>・安全に技を掛けるための基本を理解する</li> <li>・技を掛けたときのバランスを体得する</li> <li>・技の理合いを理解する</li> <li>・基本技を中心とした乱取りができる</li> <li>・正しく投げ、正しく受身が取れる</li> <li>・各種の技を使い安全に柔道ができる</li> </ul>	演習
	5	投げ技		演習
	6	崩しとつくり		演習
	7	投げと受身		演習
	8	背負い投げ 打ちこみ 投げ込み		演習
	9	大腰 打ちこみ 投げ込み		演習
	10	小内刈 打ちこみ 投げ込み		演習
	11	大内刈 打ちこみ 投げ込み		演習
	12	支え釣り込み足 打ちこみ 投げ込み		演習
	13	大外刈 打ちこみ 投げ込み		演習
	14	払い腰 打ちこみ 投げ込み		演習
	15	投げ込みの総復習		演習
	16	抑え技		演習
	17	袈裟固め		演習
	18			演習
	19	上四方固め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抑えの時間、参りの合図を知る</li> <li>・抑え技の種類を知る</li> <li>・抑え技の形を知り理解する</li> <li>・抑え技における体の位置を理解する</li> <li>・各抑え技を体得する</li> </ul>	演習

	20	横四方固め	・投げ技から抑え技への連携を体得する	演習
	21	肩固め		演習
	22	投げの形		演習
	23	礼法 間合い	・形の演武での礼法を理解する	演習
	24	手技	・受け取りの正しい間合いを知る	演習
	25		・手技の種類を知り演技できる	演習
	26	腰技	・腰技の種類を知り演技できる	演習
	27		・足技の種類を知り演技できる	演習
	28	足技	・一連の投げの形が連続して演技できる	演習
	29			演習
	30	試験		試験
後期	31	立ち技の連絡変化	・相手の力の使い方、重心移動を理解する ・複数の技を連続して掛けられる	講義
	32	抑え技の連絡変化	・抑え技における力の使い方を理解する ・抑え技から異なる抑え技への連携を体得する	講義
	33	約束乱取り	・くずしとつくりを理解し乱取りができる	講義
	34		・基本技を中心とした乱取りができる ・正しく投げ、正しく受身がとれる ・各種の技で安全に約束乱取りができる	講義
	35	総合復習	・柔道競技を安全に行える	講義
	36		・投げの形を正しく演技できる	講義
	37		・正しい受身がとれる	講義
	38	受身		講義
	39	形		講義
	40	試験		試験

【分野】 専門分野 社会保障制度の活用

【科目】 社会保障制度の活用

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	丸山 純子	
単位数	1 単位			
開講学期	2 学期	授業形態・回数	講義	10回

【授業情報】

授業概要	社会保健制度(健康保険、介護保険、年金保険、労働保険(労災保険、雇用保険))について解説し、社会保障制度の相互関係の理解を促進させる。その上で、社会保障の歴史や構造を理解することによって、俯瞰的に社会保障を理解する。
授業の一般目標 (GIO)	社会保障制度の歴史と構造を理解し、柔道整復師と社会保健制度の関係を学ぶ。また、健康保険、介護保険、社会手当、労働保険の概要を理解する。

【担当教員から】

教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理
参考書	柔整師必携(社)日本柔道整復師会編
成績評価基準	評価の観点とは1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。 学期末ごとに授業への出席回数による授業参加意欲を評価する。 4者択一式

成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>年間評価の割合：1期＝20/100、2期＝30/100、3期＝50/100</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>(1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>
授業時間外に必要な学修	各授業に対して復習を1時間
履修にあたっての留意点	<p>国家試験出題基準の基づいて頻出試験問題の内容を中心に授業を展開します。</p> <p>発展的内容を探求したい時、理解できない内容がある場合は、教員に相談するか図書館などを利用し専門書にて理解度深めてください。</p>

### 【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
2期	1	医療保険の概要	1. 国民医療費の概要について理解できる 2. 医療保険制度の歴史と経緯について理解できる 3. 高齢者医療制度の変遷や概要について理解できる 4. 保健診察の概要について理解できる	講義
	2			
	3	医療保険制度と柔道整復師	1. 医療保険財政の現状と課題について理解できる 2. 診療報酬制度の現状と課題について理解できる 3. 医療財的資源の活動について理解できる	講義
	4			
	5	柔道整復師業務における医療費	1. 療養費制度の概要について理解できる 2. 柔道整復師の療養費について理解できる 3. 柔道整復師の療養費の推移について理解できる 4. 療養費の算定について理解できる 5. 療養費請求のケーススタディで理解を深める	講義
	6			
	7			
	8			
	9	職業倫理	1. 医療従事者の職業倫理について理解する 2. 柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応について理解する 3. 柔道整復師の社会的責任と対応について理解する 4. 医療における情報と責任について理解する 5. 職業倫理のケーススタディで理解を深める	講義
	10	試験		

### 【分野】

専門分野

### 【科目】

柔道整復臨床Ⅲ

### 【基本情報】

配当年次	3年	担当教員	池亀 耕太／川崎 和子	
単位数	3単位		実務経験	治療院勤務5年
開講学期	通年	授業形態・回数	講義	30回

### 【授業情報】

授業概要	<p>実務経験を活かし実践的な内容を含め授業を展開する。</p> <p>柔道整復術に必要な知識と技能を修得し、問題解決能力を養う。柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる能力を養う。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>四肢及び体幹部の具体的な損傷過程や損傷形態、治療法について理解する。</p> <p>四肢及び体幹部の外傷に対して柔道整復術適応の臨床判定(医用画像の理解を含む)を学習する。各種物理療法機器の概要、適応と禁忌、取り扱い上の注意点を知る。</p>

### 【担当教員から】

教科書	柔道整復学(理論編)
参考書	<p>神中整形外科学(天児 民和) 新版整形外科学・外傷学(東 博彦他)</p> <p>一人で学べる柔整理論(呉竹学園)</p>

成績評価基準	評価の観点とは1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。 学期末ごとに授業への出席回数による授業参加意欲を評価する。 4者択一式
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 年間評価の割合：1期＝20/100、2期＝30/100、3期＝50/100 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満
授業時間外以外に必要な学修	教科書、授業で配付された資料を用いて授業内容の復習を行うこと

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期	1	肩甲骨骨折	1 肩甲骨骨折の分類と発生機序の関係を知る。 2 分類別の症状を知る。 3 整復法・固定法の概要を知る。 4 重要な合併症・後遺症について知る。 5 予後に関する事項を知る。	講義
	2	前腕骨骨幹部骨折	1 前腕骨骨幹部骨折の分類と概念を知る。 2 骨折型及び症状の特徴を知る。 3 整復法・固定法・施術法の注意事項を知る。 4 重要な合併症・後遺症について知る。 5 予後に関する事項を知る。	講義
	3	前腕部骨幹部骨折	1 脱臼を伴う骨折の分類と概念を知る。 2 Monteggia骨折の概要を知る。 3 Galeazzi骨折の概要を知る。 4 整復法・固定法・施術法の注意事項を知る。 5 重要な合併症・後遺症について知る。 6 予後に関する事項を知る。	講義
	4	上腕部の軟部組織損傷	1 上腕部の軟部組織損傷の分類、発生機序を知る。 2 分類別の症状及び特徴を知る。 3 施術法の概略を知る。	講義
	5	肘の軟部組織損傷	1 肘関節軟部損傷の分類、発生機序を知る。 2 分類別の症状及び特徴を知る。 3 施術法の概略を知る。	講義
	6	前腕部の軟部組織損傷	1 前腕部軟部損傷の分類、発生機序を知る。	講義
	7	前腕部の軟部組織損傷	1 分類別の症状及び特徴を知る。 2 施術法の概略を知る。	講義
	8	手部 指部の軟部組織損傷	1 手部軟部組織損傷の分類、発生機序を知る。	講義
	9	手部 指部の軟部組織損傷	1 手指部軟部組織損傷の分類、発生機序を知る。 2 それぞれの損傷の特徴を知る。	講義
	10	試験		
	11	下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折	足関節部の解剖と機能 下腿遠位部の骨折 1 分類と発生機序を理解し説明できる。 2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解する。 3 治療法の詳細を理解し説明できる。 4 保存療法と観血療法の特徴を理解し説明できる。	講義
	12	足関節損傷	1 分類と発生機序を理解し説明できる。 2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解し説明できる。	講義
	13		3 治療法の詳細を理解し説明できる。	

2期	14		4 保存療法と観血療法の特徴を理解し説明できる。 5 鑑別診断を理解し説明できる。	
	15	足・足趾部の損傷	足根骨の骨折 1 分類と発生機序を理解し説明できる。 2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解し説明できる。 3 保存療法と観血療法の特徴を理解し説明できる。 4 重要な合併症・後遺症についてを理解し説明できる。 5 予後に関する事項を理解し説明できる。 6 類症との鑑別に資する症状を理解し説明できる。	講義
	16		中足骨・趾骨の骨折 1 分類と発生機序を理解し説明できる。 2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解し説明できる。 3 保存療法と観血療法の特徴を理解し説明できる。 4 重要な合併症・後遺症についてを理解し説明できる。 5 予後に関する事項を理解し説明できる。	講義
	17		足根部の脱臼と軟部組織損傷 1 分類と発生機序を理解し説明できる。 2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解し説明できる。 3 保存療法と観血療法の特徴を理解し説明できる。 4 重要な合併症・後遺症についてを理解し説明できる。 5 予後に関する事項を理解し説明できる。	講義
	18		中足趾節関節、趾節間の脱臼・軟部組織損傷 1 分類と発生機序を理解し説明できる。 2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解し説明できる。 3 保存療法と観血療法の特徴を理解し説明できる。 4 重要な合併症・後遺症についてを理解し説明できる。 5 予後に関する事項を理解し説明できる。	講義
	19		1 分類と発生機序を理解し説明できる。 2 損傷部の病態を知り、症状・特徴を理解し説明できる。 3 保存療法と観血療法の特徴を理解し説明できる。 4 重要な合併症・後遺症についてを理解し説明できる。 5 予後に関する事項を理解し説明できる。	講義
20	試験		試験	
3期	21	頭蓋骨骨折・顔面の骨折	頭蓋骨骨折・顔面の骨折の概要が説明できる	講義
	22	顎関節脱臼	1 顎関節の構造と機能の概要を知る。 2 顎関節脱臼の分類と発生機序を知る。 3 前方脱臼の症状を熟知し整復法を知る。 4 重要な合併症・後遺症について知る。 5 予後に関する事項を知る。	講義
	23			
	24	頸部の損傷	頸部損傷の概要を説明できる	講義
	25	胸部の損傷 胸骨・肋骨骨折	1 胸骨・肋骨の構造と機能の概要を知る。 2 胸骨骨折の分類と発生機序を知る。 3 症状と施術法を知る。 4 肋骨骨折の症状と発生機序を知る。 5 症状と施術の適応、施術法を知る。 6 重要な合併症・後遺症について知る。 7 予後に関する事項を知る。	講義
	26			
	27	頸部の軟部組織損傷	頸部軟部組織損傷の概要を説明できる	講義
	28	腰部の軟部組織損傷	1 腰部捻挫の発生機序を知る。 2 症状と施術の適応、施術法を知る。 3 重要な合併症・後遺症について知る。	講義
29				
	30	3期試験		



【分野】	専門分野 臨床柔道整復学			
【科目】	患者対応応用			
【基本情報】				
配当年次	3 学年	担当教員	加藤 栄二	
単位数	3 単位		実務経験	5年以上
開講学期	通年	授業形態・回数	講義	30回
【授業情報】				
授業概要	運動器の機能維持・向上させる専門職として責任を自覚し高度な専門知識と技術を駆使し患者と柔道整復師の良好な関係を築くために患者の個別的な背景を理解し問題を把握する能力を身につける。			
授業の一般目標 (GIO)	柔道整復に関わる診察法(医療面接)、基本的な診察技術、及び助手、患者への対応について修得する。 運動器損傷の診察における徒手検査法について修得する。			
【担当教員から】				
教科書	柔道整復学実技編、柔道整復学理論編			
参考書				
成績評価基準	評価の観点とは1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。 学期末ごとに授業への出席回数による授業参加意欲を評価する。 4者択一式			
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 年間評価の割合：1期＝20/100、2期＝30/100、3期＝50/100 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満			
授業時間外に必要な学修	復習を2時間			
履修にあたっての留意点				
【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期	1	患者に対する安全性	患者に危険をもたらす施術上の問題が判断できる。施術上、患者の安全を確保する方法を示せる。	講義
	2	肩関節及びその周囲の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対する医療面接	症状から鎖骨骨折が判断できる。	講義
	3		症状から上腕骨外科頸骨折が判断できる。	講義
	4		症状からコーレス骨折が判断できる。	講義
	5		症状から肩鎖関節脱臼が判断できる。	講義
	5		症状から肩関節前方脱臼が判断できる。	講義
	6	肘関節及びその周囲の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対する医療面接	症状から肩腱板損傷が判断できる。 症状から上腕二頭筋長頭腱損傷が判断できる。	講義
	7	大腿部の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対する医療面接	症状から肘関節後方脱臼が判断できる。 症状から肘内障が判断できる。	講義
8	膝関節の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対する医療面接	症状からハムストリングス損傷が判断できる 症状から大腿四頭筋打撲が判断できる。	講義	
			症状から膝関節側副靭帯損傷が判断できる。 症状から十字靭帯損傷が判断できる。 症状から半月板損傷が判断できる。	講義

	9	足膝関節及び下腿部の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対しての医療面接	症状から下腿三頭筋損傷が判断できる。 症状から足膝関節外側靭帯損傷が判断できる。	講義
	10	試験	試験、振り返り	
2期	11	肩関節及びその周囲の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対しての医療面接及び応急手当	鎖骨骨折の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	12		上腕骨外科頸骨折の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	13		コーレス骨折の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	14		肩鎖関節脱臼の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	15		肩関節前方脱臼の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	16		肩腱板損傷の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	17	肘関節及びその周囲の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対しての医療面接及び応急手当	肘関節後方脱臼の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。 肘内障の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	18	大腿部の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対しての医療面接及び応急手当	ハムストリングス損傷の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。 大腿四頭筋打撲の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	19	膝関節の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対しての医療面接及び応急手当	膝関節側副靭帯損傷の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。 十字靭帯損傷の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。 半月板損傷の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	20	足膝関節及び下腿部の疼痛と機能障害を主訴とした患者に対しての医療面接及び応急手当	下腿三頭筋損傷の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。 足膝関節外側靭帯損傷の医療面接及び応急手当に際し助手に指示ができる。	講義
	21	試験	試験、振り返り	
3期	21	肩関節及びその周囲の損傷に対する固定	鎖骨骨折の患者に対して固定の説明ができる。 肩鎖関節脱臼の患者に対して固定の説明ができる。 肩関節脱臼の患者に対して固定の説明ができる。	講義
	22	上腕骨骨幹部骨折、肘関節脱臼に対する固定	上腕骨骨幹部骨折、肘関節脱臼に対する固定の説明ができる。	講義
	23	コーレス骨折の固定	コーレス骨折の患者に対して固定の説明ができる。	講義
	24	第5中手骨頸部骨折、第2PIP関節脱臼・肋骨骨折の固定	第5中手骨頸部骨折、第2指PIP関節脱臼、肋骨骨折の患者に対して固定の説明ができる。	講義
	25	下腿骨骨幹部骨折の固定	下腿骨骨幹部骨折の患者に対して固定の説明ができる。	講義
	26	アキレス腱断裂・足関節外側靭帯損傷の固定	アキレス腱断裂・足関節外側靭帯損傷の患者に対して固定の説明ができる。	講義
	27	膝関節内側側副靭帯損傷のテープ固定	膝関節内側側副靭帯損傷のテープ固定患者に対して固定の説明ができる。	講義
	28	足関節外側靭帯損傷のテープ固定	足関節外側靭帯損傷のテープ固定患者に対して固定の説明ができる。	講義
	29	固定時の説明に関して重要事項の確認	固定時の説明に関して重要事項を列挙できる	講義
	30	試験		
【分野】		専門分野 臨床柔道整復学		
【科目】		柔道整復総合		

<b>【基本情報】</b>				
配当年次	3 学年	担当教員	飯田 双海/丸山 純子/杉山 直人/早川 幸秀/千葉 真央/池亀 耕太/岡 和子/加藤栄二/細野 昇/須賀 一成	
単位数	12 単位		実務経験	治療院勤務5年以上
開講学期	通年	授業形態・回数	講義	120回

<b>【授業情報】</b>	
授業概要	<p>柔道整復師が臨床で遭遇する内科系、外科系、整形外科疾患を鑑別に結びつけるために必要となる運動器を中心としたの構造・機能を理解する。</p> <p>身体運動に関わる生体の構造と機能を力学的、生理学的に理解し、姿勢・運動動作における身体のメカニズムを学習する。身体運動に関わる生体の構造と機能を力学的、生理学的に理解し、姿勢・運動動作における身体のメカニズムを学習する。</p> <p>柔道整復師として、日常業務を安全かつ衛生的に遂行する上での規準・規定を身につける。日常生活で健康を維持、増進するために意義のある事項を身につける。</p> <p>柔道整復が取り扱う運動器損傷に対し、広く運動器疾患を取り扱う整形外科の診断、治療を中心とした講義をする。</p> <p>運動器疾患、外科的感染症と内科系の臓器別疾患の代表的疾患の病態生理について復習し理解を深め柔道整復師の適応症であるかどうかの鑑別ができるかどうか、理解を深めていく。柔道整復師としての禁忌と適応が的確に把握でき、かつ柔道整復師の施術効果を科学的・客観的に解析でき、医師との適切な連携ができる柔道整復師となるために理解を深めてく。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>柔道整復師で遭遇する各部位の損傷や機能障害、臨床上行われる検査法・臨床上診られる症状に必要な運動器を中心とした人体の構造機能を理解し、日常生活において遭遇しやすい運動器疾患、外科領域の疾患および内科的疾患を柔道整復師の立場から修得する。また健全な日常生活を送るための知識、社会人として身につけるべき健康維持管理能力、さらに人生を豊かにするための意義などについて理解する。</p>

<b>【担当教員から】</b>	
教科書	
参考書	<p>公益社団法人柔道整復学校協会監修解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学一般臨床医学、外科学概論、整形外科学、リハビリテーション医学、柔道整復学・理論編・実技編、施術の適応と医用画像の理解</p>
成績評価基準	<p>評価の観点とは1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。</p> <p>学期末ごとに授業への出席回数による授業参加意欲を評価する。</p> <p>4者択一式</p>
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>年間評価の割合：1期＝20/100、2期＝30/100、3期＝50/100</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>(1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>
授業時間外に必要な学修	復習を2時間
履修にあたっての留意点	

<b>【授業計画】</b>				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
	1	細胞・組織	細胞とその発生、機能に応じた組織の種類、器官と器官系の関係を説明できる。	講義
	2	骨総論	<p>全身の骨及び関節の構成を説明できる。</p> <p>筋骨格系の構造及び筋の作用、付着部と支配神経について説明できる。</p>	講義
	3	上肢の骨・関節・骨格筋		講義
	4	上肢の骨・関節・骨格筋/顎関節と咀嚼筋		講義
	5	下肢及び体幹・関節・骨格筋		講義
	6	下肢及び体幹・関節・骨格筋		講義
	7	神経系総論		<p>神経系の構成の概略を理解し、中枢神経と末梢神経の区分を説明できる。</p> <p>各神経の形態および支配する受容器を理解し、その作</p>
	8	中枢神経	講義	

9	末梢神経	用を説明できる。	講義
10	循環器系	・心臓を中心とした循環構造を理解し、各血管およびリンパ管の走行を説明できる。	講義
11	循環器系		講義
12	消化器	・消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌器の名称と各臓器の解剖学的な位置を説明できる。 ・消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌器の構造が機能に適應していることを説明できる。	講義
13	消化器		講義
14	呼吸器		講義
15	泌尿器/生殖器		講義
16	内分泌系		講義
17	感覚器	・感覚器の種類と機能を説明できる。 ・各感覚器の構造を説明できる。	講義
18	体表解剖	・運動器、動脈拍動触知部位を中心とした体表解剖を説明できる。	講義
19			講義
20	生理学基礎/体液の生理	・個体の最小構成単位である細胞の営みの仕組みが説明できる。	講義
21	血液の生理学	・血液構成成分と各機能が説明できる。	講義
22	神経の基本的機能	・神経組織の活動電位や静止膜電位について説明できる。 ・機能別に個々の神経がどのように協調と統合を行っているのかが説明できる。 ・各反射調節について説明できる。	講義
23	神経の基本的機能		講義
24	神経系の機能		講義
25	神経系の機能		講義
26	筋肉の機能	・運動機能を有する筋肉の構造や収縮の仕組み、筋の作用及び神経支配が説明できる。 ・人体に対する力学的機能を説明できる。	講義
27	筋肉の機能		講義
28	体温とその調節	・代謝や体温の仕組み、およびその調節機序が説明できる。	講義
29	内分泌系の機能/骨の生理学	・各ホルモンの具体的な働きが説明できる。 ・性分化と生殖器の変化、性ホルモンとの関係、カルシウム代謝と調節ホルモンとの関係が説明できる。	講義
30	内分泌系の機能/生殖		講義

31	循環の生理学	・循環系の機能とその調節機序が説明できる。	講義
32	呼吸の生理学	・呼吸運動の仕組みとその調節機序を説明できる。	講義
33	尿の生成と排泄	・腎での尿生成と排泄の仕組み等が説明できる。	講義
34	消化と吸収/栄養と代謝	・消化器各部の機能と調節機序および吸収の機序が説明できる。	講義
35	消化と吸収/栄養と代謝		講義
36	感覚の生理学	・各感覚の種類および各感覚器の一般的性質を理解する。	講義
37	感覚の生理学		講義
38	運動の力学的基礎	1 基本肢位を定義づけられる。 2 運動を軸と面を使って定義づけられる。 3 運動学を理解するにあたり必要な力学的な基礎知識が理解できる。 4 テコの種類と特徴を理解できる。 5 各々の関節運動で、筋とテコの種類が理解できる。	講義
39	人体におけるテコの作用		講義
40	試験		
41	運動の神経機構	1 運動に作用する反射の意味が理解できる。 2 随意運動の発現メカニズムが理解できる。 3 随意運動の誤差調節のメカニズムが理解できる。	講義
42	立位姿勢	1 立位の構えと体位を理解できる。 2 重心の意味が理解できる。 3 立位時の重心線の位置が理解できる。 4 重心を元に、立位の安定性を理解できる。	講義
43	重心		講義
44	姿勢保持	4 重心を元に、立位の安定性を理解できる。	講義
45	歩行周期	1 歩行周期を細部にわたり定義づけられる。 2 歩行周期の各期で重心バランスの変化を知る。 3 効率的歩行とはどのようなものかを知る。 4 新生児から成人型になるまでの運動発達を理解できる。 5 どのような疾患で、異常歩行がおきるかをメカニカルに理解できる。	講義
46	効率的歩行		講義
47	起立と歩行の発達		講義
48	異常歩行		講義
49	疾病の一般	疾病の概要が説明できる。	講義
50	病因	病因の概要が説明できる。	講義
51	退行性病変	退行性病変の概要が説明できる。	講義
52	循環障害	循環障害の概要が説明できる。	講義
53	進行性病変	進行性病変の概要が説明できる。	講義
54	炎症	炎症の原因を分類し例を列挙できる。	講義
55	炎症	炎症の形態学的変化を理解できる。	講義
56	炎症	炎症の経過過程を理解できる。	講義
57	炎症	炎症の漏出する物質による分類ができる。	講義
58	感染症の予防	1. 感染症の概要が理解できる 2. 感染症対策が理解できる 3. 免疫のしくみが理解できる 4. 院内感染と最近の感染症の動向が理解できる	講義
59	消毒	1. 消毒の意義と目的が理解できる 2. 消毒の分類が理解できる 3. 消毒の条件と方法をが理解できる 4. 院内感染対策と消毒が理解できる	講義
60			講義
61	精神保健	1. 精神保健の定義と経緯を理解できる 2. 精神の病気の分類をし特徴が理解できる 3. 先進障害者の入院形態を分類し違いを理解できる 4. 精神保健の主要統計の意味と傾向が理解できる	講義

2期

62	衛生行政と保健医療の制度	1. 衛生行政の考え方と概要が理解できる 2. 保健医療行政の財政を理解できる 3. 保険給付・公費負担・国民医療費の動向と分析が理解できる	講義
63	医療の倫理と安全の確保	1. 医療及び公衆衛生活動の問題と倫理が理解できる 2. 医療の安全の確保に対する国の対策が理解できる 3. 医療事故の防止についての概要が理解できる 4. 医療裁判の概要が理解できる	講義
65	整形外科診察法	・四肢計測や良肢位、関節可動域の測定を説明できる。	講義
66	感染性疾患	・整形外科領域における主な感染性疾患を挙げ、各疾患の特徴的な症状を説明できる。 ・各疾患の治療法の概略を説明できる。	講義
67	非感染性疾患	・整形外科領域での主な非感染性疾患を挙げ、各疾患の特徴的な症状を説明できる。 ・各疾患の発症部位を述べられる。	講義
68	非感染性疾患		講義
69	全身性神経・筋疾患	全身性神経・筋疾患の概要を説明できる。	講義
70	身体部位別各論(頸部・胸部・腰部疾患)	・整形外科領域での主な体幹部の疾患を挙げ、各疾患の原因と特徴的な症状を説明できる。 ・類似する外傷との鑑別点を説明できる。	講義
71	身体部位別各論(頸部・胸部・腰部疾患)		講義
72	呼吸器疾患	1. 呼吸器疾患の分類が説明できる。 2. 呼吸器疾患の主要症状が説明できる。	講義
73			
74			
75	循環器疾患	1. 循環器疾患の分類が説明できる。 2. 循環器疾患の主要症状が説明できる。	講義
76			
77			
78	消化器疾患	1. 消化器疾患の分類が説明できる。 2. 消化器疾患の主要症状が説明できる。	講義
79			
80	試験		
81	内分泌疾患	1. 内分泌疾患の分類が説明できる。 2. 内分泌疾患の主要症状が説明できる。	講義
82			
83			
84	血液・造血疾患	1. 血液疾患の分類が説明できる。 2. 血液疾患の主要症状が説明できる。	講義
85	腎・尿路疾患	1. 腎疾患の分類が説明できる。 2. 尿路疾患の分類が説明できる。 3. 腎疾患の主要症状が説明できる。 4. 尿路疾患の主要症状が説明できる。	講義
86			
87			
88	神経疾患	1. 神経疾患の分類が説明できる。 2. 神経疾患の主要症状が説明できる。	講義
89			
90	感染症・リウマチ・膠原病・アレルギー疾患	1. 感染症・リウマチ・膠原病・アレルギー疾患の分類が説明できる。 2. 感染症・リウマチ・膠原病・アレルギー疾患の主要症状が説明できる。	講義
91			
92	医療面接・視診	1. 診察の意義が説明できる。 2. 診察の進め方が説明できる。 3. 視診の方法を説明できる。	講義
93	打診・聴診・触診	1. 打診・聴診・触診の進め方が説明できる。 2. 打診・聴診・触診の方法を説明できる。	
94	生命徴候・各検査	1. 生命徴候の意義を説明できる。 2. 知覚・反射・科学的検査の意義を説明できる。 3. 知覚・反射・科学的検査の方法を説明できる。	講義
95			

96	外傷とバイタルサイン	1. 外傷時に確認するバイタルサインの意味を説明できる。 2. バイタルサインの変化と重症度の意味を説明できる。	講義
97	創傷の処置	1. 創傷の危険性の意味を説明できる。 2. 創傷の重症度とその対応が説明できる。 3. 創傷の応急処置が説明できる。	講義
98	熱傷の処置	1. 熱傷の危険性の意味を説明できる。 2. 熱傷の重症度とその対応が説明できる。 3. 熱傷の応急処置が説明できる。	講義
99	出血の処置	1. 出血の分類が説明できる。 2. 出血の危険性の意味が説明できる。 3. 止血法の意味が説明できる。 4. 出血の対応処置が説明できる。	講義
100	炎症の処置	1. 炎症の分類が説明できる。 2. 炎症のメカニズムが説明できる。 3. 炎症の予防、波及の防止のメカニズムを説明できる。 4. 原因別に診た炎症の重症度と対応が説明できる。 5. 炎症の応急処置が説明できる。	講義

101	感染の鑑別		1. 感染の分類が説明できる。 2. 外傷時に起きる感染症の種類と特徴を説明できる。 3. 感染症と思われるものの対応法が説明できる。	講義
102	頭部外傷の対応		1. 頭部外傷の疾患の種類が説明できる。 2. 頭部外傷の危険性が種類別で説明できる。 3. 頭部外傷の症状を種類別で説明できる。 4. 意識障害の重症度の指標が説明できる。 5. 頭部外傷の症状、意識障害の度合いによる対応法が説明できる。	講義
103	胸部外傷の対応		1. 胸部外傷の疾患の種類が説明できる。 2. 胸部外傷の危険性が種類別で説明できる。 3. 胸部外傷の症状を種類別で説明できる。 4. 胸部外傷の症状による対応法が説明できる。	講義
104	腹部外傷の対応		1. 腹部外傷の疾患の種類が説明できる。 2. 腹部外傷の危険性が種類別で説明できる。 3. 腹部外傷の症状を種類別で説明できる。 4. 腹部外傷の症状による対応法を説明できる。	講義
105	骨の損傷		・骨折の概要を理解し説明できる。 ・正常治癒経過・異常治癒経過の相違を説明できる ・骨折の予後について説明できる	講義
106	関節の損傷	筋・腱の損傷	・脱臼の概要を理解し説明できる。・筋損傷の概要を理解	講義
107	診察		・診察時の環境への配慮、身嗜み、言葉遣いの注意点を理解できる ・病歴聴取の流れ、患者との位置や距離感について理解できる ・身体診察の流れを理解できる ・施術録の扱いと記載についての注意点を説明できる	講義
108	治療法		・骨折の治療法を説明できる。 ・脱臼の治療法を説明できる。 ・物理療法の使用について説明できる。	講義
109	柔道整復術の適否		施術の適応判断の必要性を説明できる。適応の判断を説明できる。	講義
110	損傷に類似した症状を示す疾患		内臓疾患の投影を疑う疼痛を列挙しその患者の判断と対応を説明できる。腰痛を伴う疾患を列挙しその患者の判断と対応を説明できる。	講義
111			化膿性の炎症を列挙しその患者の判断と対応を説明できる。軟部組織の圧迫損傷の概要及び予防と対応を説明できる。	講義
112	血流障害を伴う損傷		血流障害が疑われる場合の判断と対応を説明できる。	講義
113	末梢神経損傷を伴う損傷		末梢神経損傷が疑われる場合の判断と対応を説明できる。	講義
114	脱臼骨折		脱臼骨折が疑われる場合の判断と対応を説明できる。	講義
115	外出血を伴う損傷		外出血がある場合の判断と対応を説明できる	講義
116	病的骨折及び脱臼		病的骨折及び脱臼が疑われる場合の判断と対応について説明できる。	講義
117	意識障害を伴う損傷		頭部外傷の症状を列挙し意識障害がみられる場合の判断と対応について説明できる。	講義
118	脊髄症状のある損傷		脊髄症状を列挙し脊髄症状がみられる場合の判断と対応について説明できる。	講義
119	呼吸運動障害を伴う損傷 内臓損傷の合併が疑われる損傷		異常呼吸を列挙し異常呼吸がみられる場合の判断と対応を説明できる。 内臓損傷が疑われる場合の判断と対応を説明できる。	講義
120	試験			試験



【分野】	専門分野 柔道整復実技		
【科目】	柔道整復治療法総合		
【基本情報】			
配当年次	3 学年	担当教員	千葉 真央/加藤 栄二/杉山 直人/早川 幸秀/丸山 純子 池亀 耕太/高橋 光生
単位数	9 単位		実務経験
開講学期	通年	授業形態・回数	講義 135回
【授業情報】			
授業概要	柔道整復施術所、整形外科(千葉 真央/加藤 栄二/杉山 直人/早川 幸秀/山崎 妙子/丸山 純子/池亀 耕太/高橋 光生)での勤務経験を活かし柔道整復師が対応する可能性が高い外傷をより実践的に学ぶ。授業の後半は教員ごとに小グループ別れ術者、患者、助手等を設定し各損傷に対するシミュレーション形式で全身症状・患部の確認といった診察から、整復法、検査法、固定法といった治療までを実践を想定して授業を行う。		
授業の一般目標 (GIO)	各損傷における具体的な損傷過程や損傷形態について更に理解を深める。特に頻度の高い損傷について、履修済みの科目の知識から受傷機転の仕組みや、従来より用いられている整復法や固定法に関しても、その合理性を検証する能力を培う。施術による弊害としての続発症ならびに後遺症に関しても理解を深める。		
【担当教員から】			
教科書	包帯固定法 改訂第2版 (公社)全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 改訂第2版 (公社)全国柔道整復学校協会監修 柔道整復実技 新訂版 学校法人呉竹学園編		
参考書			
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、 前期・後期に行う試験で評価する。 実技試験及び口頭試問		
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。  成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満		
授業時間外に必要な学修	復習を2時間		
履修にあたっての留意点	認定実技審査や国家試験を見据えて取り組んでほしいですが、卒業後のことも意識しながら「治せる柔道整復師」を目指して頑張りましょう！！		

【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	認定実技審査概要、審査の流れ	認定実技審査の概要及び流れが説明できる。	実技
	2、3	肘内障	<診察、整復法・検査法> 1 各損傷の来院肢位を再現できる。 2 患者に対して愛護的に接することができる。 3 問診、視診、触診により全身状態の観察ができる。 4 問診、視診、触診により損傷部位の状態を把握できる。 5 助手に対して整復の補助動作を説明し、実施させることができる。 6 整復動作を矛盾のない順序で適切にできる。 7 整復後の全身状態ならびに患肢の状態を評価できる。 8 患者に対し検査法を説明し必要動作を指示することができる。 9 検査法の各動作、評価が適切に実施できる。	実技
	4～7	鎖骨骨折		
	8～11	肩鎖関節脱臼		
	12～15	上腕骨外科頸骨折		
	16～19	上腕骨骨幹部骨折		
	20～23	肩関節脱臼		
	24～27	肘関節脱臼		
	28～31	コーレス骨折		
	32～35	第2指PIP関節背側脱臼		
	36～38	第5指中手骨頸部骨折		
	39、40	下腿骨骨幹部骨折		
	41、42	肋骨骨折		
	43	中間試験		試験
前期	44、45	腱板損傷	<固定法> 1 各損傷に応じた固定材料を選択できる。 2 固定の目的、概要を説明できる。 3 助手に対して固定の補助動作を説明し、実施させることができる。 4 損傷に適した固定法が実施できる。 5 出来栄が綺麗な固定が実施できる。 6 固定後の全身状態ならびに患肢の状態を評価できる。	実技
	46、47	上腕二頭筋長頭腱損傷		
	48、49	ハムストリングス損傷		
	50、51	大腿四頭筋打撲		
	52～54	膝関節側副靭帯損傷		
	55、56	膝関節十字靭帯損傷		
	57、58	膝関節半月板損傷		
	59、60	下腿三頭筋損傷		
	61、62	アキレス腱断裂		
	63～65	足関節外側靭帯損傷		
	66	期末試験		試験
後期	67～76	肩部周辺損傷について応急処置の実際	<各損傷について> 1 発生機序が説明できる。 2 転位が説明できる。 3 鑑別に関する説明ができる。 4 症状または所見の説明ができる。 5 合併症の説明ができる。 6 その他の整復・固定・検査法の説明ができる。 7 整復(検査)または固定の注意点を説明できる。 8 固定期間の説明ができる。 9 指導管理の説明ができる。 10 予後の説明ができる。	実技
	77～86	肘部周辺損傷について応急処置の実際		
	87～96	手部周辺損傷について応急処置の実際		
	107～112	大腿部周辺損傷について応急処置の実際		
	113～122	膝部周辺損傷について応急処置の実際		
	123～128	下腿部周辺損傷について応急処置の実際		
	129～134	足部周辺損傷について応急処置の実際		
	135	期末試験		試験
【分野】		臨床実習		
【科目】		臨床実習Ⅲ		
【基本情報】				
配当年次	3 学年	担当教員	飯田 双海/丸山 純子/杉山 直人/早川 幸秀/千葉 真央/池亀 耕太/岡 和子/加藤 栄二/紀平 晃功/田辺 耕太	
単位数	2 単位			
開講学期	1期	授業形態・回数	実習	外部:1施設(1施設:80時間) 内部:10時間
【授業情報】				
授業概要	学内教育の総括とし実習指導者の下で、柔道整復について学びながら、自ら問題を解決できる能力を養い、卒後は即戦力のある専門職になることを自覚するために必要な知識や役割、行動、社会性を学ぶ。また、担当症例に対する適切な、治療経過を観察・記録し、担当症例を的確に把握することを学ぶ。			

授業の一般目標 (GIO)	実習指導者の下で、自ら問題を解決できる能力を養い、担当症例に対する適切な柔道整復による経過を観察・記録し、症例像を的確に把握する。
成績評価基準	実習指導者による評価、および実習おけるデイリーノート等により総合的に評価する。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。  (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>
授業時間外に必要な学習	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】

	見学及び実習内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期 (臨地実習)	1～80 態度 付帯業務 診察鑑別技術 リスクマネジメント 施術立案 説明と同意 柔道整復術	<p>施術者に相応しい身だしなみ(服装・容姿)ができる  施術者に相応しい挨拶と言葉遣いができる  時間や約束事を守ることができる(規律性)  臨床実習指導者の指示に適切に応えることができる  実習先のスタッフと良好なコミュニケーションを築くことができる(協調性)  実習に際して目的意識を持って臨むことができる(積極性)  患者に不快感を与えない態度がとれる  常に患者側の立場に立って会話し、行動できる  守秘義務・個人情報に注意を払っている  自分にできないことは適切に指導者及び他のスタッフに相談・依頼することができる  施術者に相応しい身だしなみ(服装・容姿)ができる  施術者に相応しい挨拶と言葉遣いができる  時間や約束事を守ることができる(規律性)  臨床実習指導者の指示に適切に応えることができる  実習先のスタッフと良好なコミュニケーションを築くことができる(協調性)  実習に際して目的意識を持って臨むことができる(積極性)  患者に不快感を与えない態度がとれる  常に患者側の立場に立って会話し、行動できる  守秘義務・個人情報に注意を払っている  自分にできないことは適切に指導者及び他のスタッフに相談・依頼することができる  施術室や待合室などの清潔保持の意味が説明できる  施術室や待合室などの清潔保持ができる(責任性)  施術道具及び施術機器の衛生管理に努めることができる。  受付で、予診表の記入方法を説明できる。  医療面接(問診)と身体診察(触診など)の手順が説明できる。  医療面接(問診)ができる  身体診察(触診など)ができる  ROM、MMTなどの計測、評価を説明できる  ROM、MMTなどの計測、評価できる  各種徒手検査、各反射検査などの評価を説明できる。  各種徒手検査、各反射検査などで評価できる。  損傷の原因や状態を把握できる  超音波診断装置の理解と読影ができる  業務範囲、適応の判断ができる  救急患者の対応ができる  各種リスクマネジメントを説明できる</p>	<p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p>

		<p>観察結果から施術方針が立案できる</p> <p>施術方針に基づいて施術計画を立案できる</p> <p>施術の説明・計画・方法等を患者に説明できる</p> <p>施術の方針・計画等について患者の同意が得られる</p> <p>骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期処置法などが説明できる</p> <p>巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術習得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかを説明できる</p> <p>巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹の変化に対応できる包帯の技術習得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかの技術を修得している</p> <p>患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術を説明できる</p> <p>患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などの技術を修得している</p> <p>後療法の種類と特徴及び適応と禁忌を説明できる</p> <p>運動療法の種類と方法及び適応と禁忌を説明できる</p> <p>正しく各運動療法を行うことができる</p> <p>物理療法機器の効果と適応と禁忌が説明できる</p> <p>正しく物理療法機器を患者に装着できる。</p> <p>患者誘導ができる。</p> <p>臨床実習指導者のもと患部を愛護的に扱うことができる</p> <p>施術録の項目を説明できる</p> <p>医療面接及び所見を記載できる</p> <p>臨床実習指導者が行う診察に参加し、臨床実習指導者が記載する施術録と同水準の記載できる。</p> <p>社会保障制度のしくみの概略を説明できる</p> <p>療養の給付と療養費の償還払いと受領委任払いのしくみを説明できる</p> <p>柔道整復師法や健康保険取扱いに関する協定等の関連規定を説明できる</p> <p>症例検討の記載項目を説明できる</p> <p>症例検討について適切に内容を記載できる</p>	<p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p>
81～90	振り返り	<p>施術所での臨床実習を通して柔道整復師の知識、技能、態度習慣の重要性を理解し能動的な学修ができる。</p>	<p>実習</p>